

フロイト Freud, Sigmund 1856 ~ 1939

オーストリアの心理学者・精神医学者。

モラヴィアのフライベルクに生まれる。フロイトは、父と父の3人目の妻である母、そして2人の異母兄を含む10人兄弟という家族構成の中で育った。一家は彼が4歳の時、当時オーストリアの首都でありヨーロッパの文化・科学・医学の中心であったウィーンに移った。フロイト家はユダヤ人であり、彼のユダヤ人としての文化的背景と伝統は、その思想に影響を残している。

彼は、精神病の命名と分類に終始していた伝統的精神医学に対し、「自由連想(無意識的な心の動きを分析するため、被験者に自由な連想を働かせて自分の夢を説明させる)」という画期的方法を使って症状の隠された意味を探る精神分析を創始した。著書『精神分析入門』は、無意識の心理学としての精神分析論を確立した書である。この書において、彼はさらに精神構造論・力動論・治療論を展開して、今日の精神分析各派の礎を作った。

フロイトの先導により精神分析は人間の現代における支配的理論になり、今日、世界中で患者の治療に当たっている無数の臨床精神科医にとって欠くことのできない療法の一つとなっている。精神分析学的思考は歴史学、人類学、宗教、芸術、社会学、教育学などへ応用され、各分野で大きな変革をもたらした。

Great Books 41 精神分析入門(Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse)

『精神分析入門』はフロイトが61歳のときの著作であり、晩年になって著わした啓蒙的な作品である。「序」に明記されているように、彼がウィーン大学で「1915年から16年にかけてと1916年から17年にかけての2度の冬学期に、医師も非専門家も男性も女性も加わった聴衆を前にして行なった講義を、そのまま再現させたもの」である。内容は第1部が「錯誤行為」、第2部が「夢」、第3部が「神経症総論」という構成となっている。

この本の中でフロイトは、あらゆる異議や抗議をあらかじめ想定して、そのひとつひとつに丁寧に答えていくという形式をとった。聴講生を納得させながら、自説を次第に発展させ強固にしていくという方法で、錯誤行為・夢・神経症の症状についてその意味を一緒に考えようと読者を誘っているのである。

症状の意味を問うということは、今では当たり前のことである。ところが、フロイトが活躍していた頃のヨーロッパの精神医学の世界においては、神経症の意味を問うことは、ほとんど誰もしなかった。症状は精神科医によって命名され、分類されるものであり、宿命的な変質徴候か或いは脳の機能障害を直接反映した無意味なものと考えられていたのである。

精神分析の療法の実際においては、今日、フロイトの時代より治療者対被治療者の感情関係の推移に力点がかれ、フロイト流の解釈技術は敬遠される風潮を生んできた。しかし、最近医師よりもむしろ一部の哲学者や言語学者たちが、フロイトの「解釈」の問題に取り組み始めている。

Key Word 無意識

フロイトの精神分析理論には、三本の柱がある。人間の心には無意識的な心の動きがあるという想定、抵抗と抑圧の理論、性とエディプス・コンプレックスの重視である。

フロイトは『精神分析入門』で「錯誤行為」から話を始めているが、これは何かをしよう、言おう、という意識的意図に対してそれを妨げる密かな意図が働き、その両者のせめぎあいから生じてくるものだと書いている。彼は「錯誤行為」は、このような当人が知らないままに活動している意向、無意識的な心の動きによるものだと想定した。

また、彼は「夢」にも無意識が働いている説いた。

夢は眠りの間に眠りを妨げる刺激から眠りを守る心との反応である。夢は心的現象であるが、夢をみた当人にはその意味がわからないことがある。夢解釈を行おうとすると必ず強い抵抗にぶつかるのは、この抵抗が夢の内容に大きな歪曲を与えているからである。夢が物語るものを「夢の顕在内容」というが、夢の顕在内容である「無意識的なもの」の多くを「性的願望」が占め、そこに強い「エディプス・コンプレックス(子どもが父親を敵視し、母親をわがものにしたいとする願望)」がひそんでいるという。

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 完訳・世界の大思想 3 / 菊盛英夫(訳)
河出書房新社 1984年刊 465, 9 p <080P/9/3> 資料番号 12296596
- 📖 フロイト著作集 第1~11巻 / 井村恒郎(ほか編)
人文書院 1980~1984年刊 <140.8P/17/1~11>
- 📖 世界の名著 49 フロイト / 懸田克躬(編)
中央公論社 1967年刊 558 p <080/5/49> 資料番号 12784641
* 日本語タイトルは「精神分析学入門」となっている。
- 📖 世界大思想全集 社会・宗教・科学思想篇 20 / 菊盛英夫(訳)
河出書房新社 1956年刊 352, 5 p <080/3/2-20> 資料番号 10134542
- 📖 フロイド選集 第1~17巻
日本教文社 1954~1960年刊 <140.8/2/1~17>
- 📖 Great books of the Western World vol.54 Freud / Robert Maynard Hutchins(ed)
Encyclopaedia Britannica 1989刊 884 p <080/G/54> 資料番号 20257697

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 夢と夢解釈(講談社学術文庫) / ジークムント・フロイト(著) 金森誠也(訳)
講談社 2001年刊 241 p <146.13/4> 資料番号 21415138
- 📖 フロイト&ラカン事典 / P・コフマン(編) 佐々木孝次(監訳)
弘文堂 1997年刊 611 p <146.1/90> 常置(相談室) 資料番号 20993960
- 📖 フロイトのウィーデンブルク・ベッテルハイム(著) 森泉弘次(訳)
みすず書房 1992年刊 464 p <146.1AA/32> 資料番号 20446837
- 📖 フロイドを読む / 岸田秀(著)
青土社 1991年刊 254 p <146.1Z/15> 資料番号 20292264
- 📖 フロイト / ジャン・ポール・サルトル(著) 西永良成(訳)
人文書院 1987年刊 335 p <952U/76> 資料番号 12754982
- 📖 フロイトの読み方 / 外林大作(著)
誠信書房 1983年刊 254 p <146R/126> 資料番号 12310959
- 📖 フロイト 上・下(誠信フロイト選書) / マックス シュール(著) 安田一郎(ほか訳)
誠信書房 1978~1979年刊 <146L/81/1~2> 資料番号 10231272, 10231280
- 📖 フロイト入門 / ロバート・ウェルダ(著) 村上仁(訳)
みすず書房 1975年刊 168 p <146F/62> 資料番号 10231066
- 📖 フロイト(NHKブックス) / 小此木啓吾(著)
日本放送出版協会 1973年刊 253 p <146D/54> 資料番号 10230985
- 📖 フロイトの生涯 / アーネスト・ジョーンズ(著) 竹友安彦(ほか訳)
紀伊国屋書店 1964年刊 618 p <289.3/163> 資料番号 10545242